

6月20日(月)
(震災から102日目)

海水を淡水化するシステムが稼働！ようやくフロアのトイレが使用可能に

水が出ない、という事は何をしても大変だと思いついた私たちですが、栗田工業様と日本財団様、戸倉工業様の多大なご支援により、この日から海水を淡水化するシステムが稼働しました。6/20からは栗田工業様のご支援で南館5階、6階のフロアのトイレが使用可能に。そして6/27からは日本財団様、戸倉工業様のご支援でより向上し、これにより◆館内すべてのトイレ、お部屋の洗面所が使用可能に ◆1週間に2回だった入浴が毎日可能に ◆冷房も利用可能！館内のトイレが利用可能になると、臭いの問題や仮設トイレで悩んでいたハエの異常発生等が一気に解消し、感染症や熱中症の心配がなくなる等、様々な問題が解決していきます。ようやく普通の日常生活を送れる様になりました。



7月2日(土) 水道復旧
震災から114日目

2階大浴場・露天風呂が再開

当館2階に位置する大浴場も津波で甚大な被害を受けましたが、震災から4か月後、復旧工事が完了。南三陸温泉の湯が満たされ、営業が再開されました。



『数ヶ月間お世話になったから、ホテルスタッフにサプライズで』と住民の方々が『感謝の集い』を企画。感動のひとつに



二次避難所としての役割が終了

仮設住宅とホテルを巡回する「観洋ぐるりんバス」を運行

震災から間もなく6ヶ月。当館に二次避難していた皆様は、徐々に仮設住宅への入居が決まり、新しい生活が始まりました。二次避難所としての役割を終えた中、地元の皆様にも、もっと気軽に！もっと身近に！当館を利用していただきたいという思いから、仮設住宅を巡回するホテルの「観洋ぐるりんバス」の無料運行を開始。当館の広間でお茶飲み会も実施し、和やかなコミュニケーションの場を設けていきました。また、ご高齢者の南三陸町民に月数回の無料入浴日を設定し提供して喜ばれています。



二次避難
住民の方々が
仮設住宅へ移動
しました

8月31日(水)
震災から174日目

9月1日(木)
震災から175日目



3.11からの記憶



2011年3月11日14時46分、東日本大震災発生以来
ホテルスタッフと地元住民、ボランティアの方々とともに歩んできた
南三陸ホテル観洋の記録です。
私たちの記憶を多くの皆様にお届けすることで、
将来の防災・減災への取り組みにお役立ていただければ幸いです。

EVENT

避難住民の方々に癒しを届け、力を与えた
数々のイベントは2年間で600回以上

マッサージ メイクアップ
ヘアカット 音楽ライブetc.

日本国内に留まらず、世界中の皆様からご支援、ご協力をいただいて開催された数々のイベント。その一つ一つが、被災住民、ホテル・ボランティアスタッフなど、すべての人たちの勇気となり力となりました。



震災前の南三陸町

2011年7月

	人口	世帯数
2011年2月時点	17,666名	5,362世帯
2013年3月時点	15,066名 (5,783名)	4,831世帯 (1,892世帯)
2016年4月時点	13,688名 (3,092名)	4,600世帯 (1,105世帯)
2019年4月時点	12,792名 (23名)	4,526世帯 (9世帯)

※()は仮設住宅入居

南三陸町
被災状況

死者/620名
行方不明者/211名
建物被害/3,321戸
(中心部の約8割、
全体の約62%
が流失)



Message
from
Kanyo

防災、減災への備え、
伝えたい思い
未来へ活かして欲しい
震災の経験



出会いに感謝し、魅力ある地域づくりを

「千年に一度の災害は、千年に一度の学びの場」であり、町を元気にする為にも、皆様にお越し頂ければと存じます。今後ご縁を大切にしながら、新しい地域づくりに向け、みんなで力を合わせて参ります。
【南三陸ホテル観洋 女将 阿部憲子】



この震災を風化させないために

多くの方々に助けられて生活してこれました。感謝の気持ちを忘れずに。私の話を真剣に聞き、亡くなった方の為に涙を流してくれる人が居る限り、語り部として多くの方に語り継いでいきたいです。
【南三陸ホテル観洋 渉外部長 伊藤文夫】



多くの支えで子どもたちが元気に

様々な教訓を無駄にする事無い様に、防災マニュアルを作成しました。震災直後は子供達との時間が満足に取れなかった為、現在は子供達との時間を大切に託しています。
【マリナル 保育士 小野寺ひとみ・三浦美香】



無駄を出さないように徹底を

一日一日を乗り切りながら無我夢中で突っ走った震災直後でした。今は、食べ物の無駄を出さない様に、水も大切に使いながら、震災前よりも増して在庫管理を徹底する様になりました。
【南三陸ホテル観洋 調理長 芳賀弘幸】

情報発信——
まずは知って
いただくこと



震災直後も毎日更新し続けるブログ
インターネットから全国へ情報発信

震災以前から毎日更新していたブログやTwitter。携帯電話の電波が繋がりにくかった震災直後から、HP制作会社と連携しながら更新を続け、被災生活の状況を発信し続けていました。現在も毎日、ブログやTwitter (@kanyo11)、Facebookにて最新情報を配信中。詳しくは公式HP (<https://www.mkanyo.jp>)にて。

ご支援と激励をいただいたすべての皆様に、感謝の思いを込めて。

編集 / 南三陸ホテル観洋 発行 / 2013年3月11日 (2019年9月改訂)

宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17 TEL.0226-46-2442

HP > <https://www.mkanyo.jp> twitter > @kanyo11

ホテルのお客様へ実体験を伝える語り部バスを毎日運行

自宅を津波で流されるなど、自らも被災者となったホテルスタッフが『語り部』となって当時の様子を伝える語り部活動を2011年4月よりスタート。2012年2月より『震災を風化させないための語り部バス』を365日運行し、2019年8月現在ご案内したお客様はのべ35万人以上に。防災・減災へのたゆまぬ取組が高く評価され、第3回ジャパン・ツーリズム・アワード大賞を受賞しました。



東日本大震災 発生当日からを振り返る

東日本大震災の発生日、当館にはお客様とホテルスタッフ、周辺住民の合計350名が滞在。震災直後の対応から、二次避難所として600名の地元の皆様とのコミュニティを作った取り組みを振り返ります。

2011年
3月11日(金)
14時46分

**M9.0
東日本大震災
発生!**

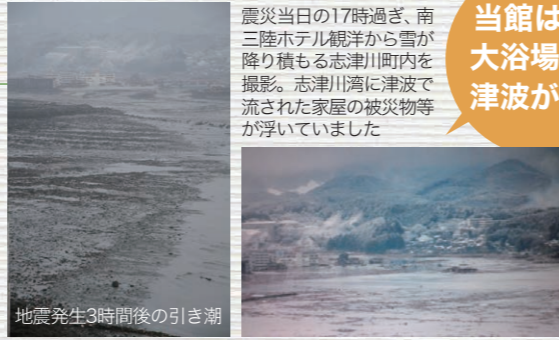
南三陸町で震度6弱の揺れと最大20m以上の津波が襲来

地震直後に停電・断水となりました。館内のお客様をスタッフが高台にあるホテル運営の託児所マリナルへ誘導。直後から住民の方々が当館を目指して、次々と着の身着のまま避難してきました。館内では地震の揺れによる被害はほとんどなく、売店の商品が棚から崩れることもありませんでした。

電気・水・道路などライフラインが絶たれ孤立状態に



余震が続く段々と暗くなっていく中、皆様に夕食をお配りしました。スタッフは笹かま一枚。その日のうちに厨房にて食材の在庫から一週間分の献立を意識し、翌日には600名以上の食の提供を開始。携帯は一部の機種が辛うじて繋がる程度で、ラジオからは耳を塞ぎたいような情報が次々と入り、安否確認・周りの状況が掴めないまま、託児所やバス、車内にてそれぞれ眠れない夜を過ごしました。



震災当日の17時過ぎ、南三陸ホテル観洋から雪が降り積もる志津川町内を撮影。志津川湾に津波で流された家屋の被災物等が浮いていました

当館は2階大浴場まで津波が浸水

地震発生3時間後の引き潮

3月13日(日)
(震災から3日目)

ご宿泊者のチェックアウトを開始

町内へ向かう橋が壊れていたり、仙台方面の道路は、被災物で寸断されたり、木材が倒れていたり、道路が崩壊して孤立状態。三日目にして、被災物の中を自力で乗り越えながらも何とか移動することができるように。正午に警察の方々と一緒に横山避難所に向かうことになりました。前日に計画を立て、宿泊者のチェックアウトを順次開始。午前10時にはチェックアウトはじめ、正午にはお客様を乗せたバスが発発！大変な状況にあったのにも関わらず、『本当にありがとう！』『また泊りに来るよ』『頑張ってるね！』等、温かいお言葉にスタッフ一同、感激しました。

3月17日(木)
(震災から7日目)

ご宿泊者全員が無事チェックアウト完了

ご宿泊者全員が帰路につく一方で、家を流失したスタッフや関係者がホテルに残り、ライフラインが止まる中、助け合いながら避難生活が始まりました。

給水車支援がスタート

セントラル自動車(現トヨタ自動車東日本)様のご支援により、給水車で20tの水が届けられるようになりました。通常営業時の使用量は一日300t。その後、同社のご厚意により、一日60t、80tと増量していただくようになりました。皆で節水に努め何とか生活していましたが、水が無いと水洗トイレが使用できず仮設トイレを使用したり、洗濯が出来なかったり、お風呂も週に一度か二度しか入れず衛生面の心配がありました。



セントラル自動車様が登米市から運んでくれました

自衛隊により水尻川の仮設橋が設置

様々なボランティアの方が南三陸へ

当館スタッフの友人、アンジェラさんが南三陸に来てくれました。『OGAインターナショナルスクール』では、今回の災害地の為に何かしたい！という事で、支援物資を集めて持ってきてくれました。ホテルを拠点にホテルスタッフと協力して各地区を回り、情報収集して、物資が行き届いていない場所に物資を届けるとのこと。その他多くのボランティア団体、スタッフが被災地に続々と入り始め、ホテルを拠点にして活動。南三陸を元気にするために、ホテルが復興の拠点になりはじめていますと感じた時期でした。



医療団体の活動拠点にも

町内の医療施設が失われ、医療巡回している医師の方々に部屋と食事を提供していました。

ホテル併設の託児施設マリナルに発電機

発電機のご支援があり、託児施設での避難生活が向上しました。

4月9日(土)
(震災から30日目)

4月10日(日)
(震災から31日目)

ホテル観洋本社(株)阿部長商店 創業50周年記念日

本来であれば華やかに祝典が催される予定になっていましたが、みんなで昼食の前にジュースで乾杯です。



4月15日(金)
(震災から36日目)



南三陸町内のインフラが徐々に復旧 ホテル内にもようやく電気が通る

街並みが失われた町に電柱が立ち、震災から36日目にしてようやくホテルに電気が復旧。翌々日には、ボランティア支援によるジャズライブをホテルロビーで開催しました。



4月23日(土)
(震災から44日目)

いまだ断水が続く中で お食事処「海フードBBQ」営業再開

断水が続いている中でも、出来る限りのおもてなしをしたいと、限られた時間、食材や食器でお食事処「海フードBBQ」の営業を再開。お客様の中には避難所に身を寄せている方もいらっして、温かい食事に「家族にも食べさせてあげたい」と涙ながらに話された方や、限られたおもてなしでも笑顔で「ごちそうさま」とお帰りになる方も多く、わたしたちにとっても「これからも頑張っていくぞ！」という励みになりました。



5月5日(木)
(震災から56日目)



ホテルの施設を二次避難所として 地元被災者の方々の受け入れを開始

二次避難先としての受け入れ準備のため、住民のネームプレートやおりを作るなど態勢を整えました。当館に南三陸町の地域住民の皆様600名の方がお引越され、各フロア毎に班長を決めて自治会を発足し、毎週ミーティングを行いました。医療、インフラ工事関係者を含め、総数1000名の受け入れ開始。

**二次避難住民受け入れ600名
新たな役割がスタート!**

5月18日(水)
(震災から69日目)

避難住民の運動不足解消に 体操や多くのイベントを開催

様々な地域よりお越しく下さいましたボランティアの皆さんに、避難住民の運動不足解消のための体操やマッサージを教えていただきました。復興のシンボルとなるひまわりを育てたり、談話室にてお茶を飲みながら、ちょっとした交流会も行ないました。



**ヨガ教室や
マッサージも開催**

5月26日(木)
(震災から77日目)

洗濯は川へ風呂週2回「洗濯ボランティア」スタート



未だ通水されていないので、洗濯物は小一時間かけて隣のコインランドリーで洗濯したり川で洗濯をしたり。川で洗濯なんて、信じられない話かも知れませんが、本当なんです。何とか町民の方々が過ごしやすくなる様に、「仙台の洗濯ボランティア」に依頼。避難住民の班長会議に担当者が来ていただき、早速お願いすることに。

5月28日(土)
(震災から79日目)

地元雇用の受け皿として… 阿部長グループ新入社員30名の入社式

本来であれば4月に予定されていた阿部長商店グループの入社式が、この日に執り行われました。総勢30名が入社してわが社も活気が出ています。入社式まではボランティアをしたりとそれぞれ頑張っていたようで頼もしい子たちばかり。入社式の数日前には防災対策庁舎に二人の新入社員が訪れて献花をし、祈りを捧げました。ライフラインがすべて整っているところから、日常生活でさえ不便なこの南三陸へ来るのも覚悟があったと思います。



6月19日(日)
(震災から101日目)

そろばん教室など、子どもたちの 学習支援プロジェクトがスタート

本や学習道具、勉強する場所さえも失った子供たちのために、学習の機会と場所を提供。寄付していただいた1万冊の本で館内に臨時図書館を設置。学習支援として子どもたちに寄り添う寺子屋やそろばん教室、ボランティアスタッフとの英会話レッスンなど学習支援プロジェクトをスタートしました。

